

第2回可児市地域公共交通協議会議事要点録 概要

【日 時】 平成20年6月3日(火)午後1時30分～午後3時15分

【場 所】 可児市役所4階第1会議室

【出席者】 協議会委員15人、代理委員1人、欠席委員3人、事務局3人

1 あはつ

【あはつ要旨】

前回(3/25)は、市内の公共交通機関の現状に関する説明があった。また今回は、年度替りの役員交替や人事異動により3人の新委員を迎えた。後ほど事務局から、さつきバスのコンセプトの見直し及び名鉄広見線の現状について説明があるのでご意見をいただきたい。

2 委嘱状交付

今回新たに委員となった伊藤(邦)委員、福田委員、岡田委員に委嘱状を交付した。

3 協議

協議に入る前に、会長から本日の会議録の議事録署名者として澤田委員と伊藤(邦)委員の指名があった。

資料に基づき事務局から説明し、次回の協議会ではデマンド運行について協議することとなった。

(主な意見)

【発言者】 委員 事務局

さつきバスのコンセプト(案)について

資料1に基づき事務局から説明した。

「コンセプトを絞り込む」について、もう少し具体的に説明して欲しい。

これまでは多目的に運行していたため、結果的に使いにくいものとなっていた。目的を絞り込んで、欲張りすぎずに使いやすいものにしていきたい。

資料1の最下段の表の数値は、バスの利用者数でしょうか？

バス利用者ではなく人口(実績と推計)です。

コンセプトを推し進めるための運行体制

資料2、図1、図2、図3、別表1に基づき事務局から説明した後、委員からデマンド運行に関して自主的に研究された内容の説明があった。

事務局提案のA案では今までにないデマンド運行が含まれている。事務局説明の中に「運行経費単価が高いところがある」とあった。もう少し具体的に説明して欲しい。他市町村事例調査の中で、距離数が算出されているところにおいて割戻し計算で運行経費単価を算出したところ、定時定路線に比べて高い傾向だった。

デマンド運行は路線バスやタクシーとの調整が必要とあったが、どこからの意見か？

今回調査を行った市町村の公共交通担当者です。

デマンド運行は、路線バスと自家用車の中間にあるものと認識した。

デマンド運行には幅広い解釈があり、路線バスやタクシーと競合する部分がある。デマンドを取り入れるならば、地域の公共交通体系全般の中で考慮する必要がある。

デマンド運行の認識は多種多様であるが、前橋市はパソコン(PC)システムを導入した点に特徴がある。デマンドの認識を一致させてから議論する必要がある。

さつきバスのサービスとコストを考える中で、デマンド運行方式をベースに取り入れて検討する必要があると認識しており、デマンドの理解を深めていきたい。

その他

【さつきバス】

乗降口が高い。車椅子対応の車両も必要である。東京などでは低床車両を見かける。

現在ステップリフトになっていない4台をステップリフト車両に換えてほしい。

可見市は丘陵地でさつきバスのルートも坂道や傾斜があり、ある程度の車高が必要である。低床式車両については今後の検討課題としたい。

運転が荒いときがある。

普段と違うルートを通っていた。

東鉄に対して改善指導します。

【スケジュール】

平成21年4月に新運行体制がスタートする予定であるが、スケジュールはどうか？

前回の会議で示したスケジュールどおり、平成21年4月の改正を目標としている。

4 名鉄広見線(新可見駅～御嵩駅)の状況および対応について

資料3に基づき事務局から説明した。

(主な意見)

全国の地方鉄道には同じような事例があり、こうした問題もデマンドバスを絡めて解決できると思う。

鉄道はこれまで、単に人を運ぶだけのものであった。今後は、観光的要素などを絡めるなど、全く別の発想で活性化を考えていくのか、もう少し具体的に説明して欲しい。地域資源(工業団地、中仙道、花フェスタ記念公園)の活用も含めて活性化策を考えていくが、イベントに関するものは一過性の性質が強いので、通勤利用を伸ばすことが重要と考えている。

5 まとめ

本日の協議会では非公開部分はないことを確認し、事務局からデマンド運行に関する資料を届けることを伝え、協議会を閉会した。